

# 教育後援会だより

## 守山養護学校の役割とは？



滋賀県立守山養護学校  
校長 福井 亜由美

長かった猛暑・残暑が過ぎ、やっと過ごしやすい季節になりました。会員の皆様、日頃から守山養護学校に在籍する児童生徒の教育活動の充実にご理解とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。児童生徒は、病院や学校から出かけることができない状況が続いていますが、日々の学習活動や遊び、本物に出会う体験活動等の中に楽しみを見つかけながら、治療や学びに向き合っています。

少し季節を戻しますが、7月下旬から9月上旬までパリオリンピック・パラリンピックが、9月から10月にかけては佐賀県で国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が開催されました。報道では、メダルの色や獲得数、都道府県の順位が話題になりましたが、本番で最高のパフォーマンスを発揮することをめざした、選手一人ひとりの日々の努力、大舞台までの道のりを想像し、心打たれた方も多かったのではないのでしょうか。

さて、守山養護学校に在籍する児童生徒のみなさんは、この学校での生活、学習や行事をどのように受けとめているのでしょうか。

入院（転院）も転校も、これまでの環境からの大きな変化となります。その変化に対して、心も体もがんばって適応しようと、大きなエネルギーをつかっています。生活のリズム、人間関係、姿勢や体の動かし方、学習方法、どれをとっても初めてのことがほとんどです。私たち教職員には、児童生徒みなさん一人ひとりの体調や気持ちの把握に努めるとともに、変容もしっかりと捉えることが求められています。児童生徒のみなさんには、守山養護学校での生活や学びを振り返る活動を通して、自分の好きなこと・得意なことやがんばりに気付き、自信をもってほしいと思います。そして、次の目標につなげてほしいと願います。

保護者の皆様や病院関係者の皆様をはじめとした関係の皆様と連携して、「子どもをみる力」「つなぐ・つながる・つなげる力」を高め、病弱教育の充実を図っていきたいと思います。これからも引き続きまして、ご支援、ご指導をいただきますよう、どうぞよろしくお願いたします。

第 53号 <令和6年12月発行>

滋賀県守山市守山五丁目6番20号  
守山養護学校教育後援会



TEL: (077) 583-5857

H P : <http://www.moriyama-sh.shiga-ec.ed.jp/>

MAIL : [moriyama-sh@pref-shiga.ed.jp](mailto:moriyama-sh@pref-shiga.ed.jp)

# 学校生活の様子

## 文化祭

10月3日（木）～4日（金）の2日間、文化祭を実施しました。参加した児童生徒は、小学生7名、中学生6名の計13名でした。今年度も、感染症対策を徹底して、保護者の方にも参観していただけるようにしました。さらに今年度は、4年ぶりに病院関係者の方にも多数参観していただきました。たくさんの方に見守られ、緊張した様子の子どももいましたが、発表後の温かい拍手に達成感を得ることができたのではないのでしょうか。

このように、無事に文化祭を終えることができたのも、保護者の皆さまや、教育後援会会員の皆さまからいろいろ励ましや、ご協力をいただいたおかげです。ありがとうございました。

それでは、文化祭2日間の様子を見ていきたいと思います。

### 〔文化祭1日目〕

文化祭は、1日目（10月3日）の開会式からスタートしました。

今年度も、子ども実行委員会の児童生徒4名が協力して、『文化祭スローガン』と『文化祭テーマソング』の発表と、文化祭を盛り上げるための掲示物の準備、開・閉会式や全体の司会進行に取り組みました。



『会場（プレイルーム）の様子』

今年度の『文化祭スローガン』は、「笑顔で協力 最強の文化祭にしよう！！！」でした。びっくりマークが3つもついているのは、「いつもの3倍盛り上げよう」という文化祭実行委員の児童のアイデアです。今年の『文化祭テーマソング』は、みんなが楽しめる曲として、アニメ“ドラえもん”の主題歌『ドラえもんのうた』と、Mrs. GREEN APPLEの『ケセラセラ』の2曲が選ばれました。



『子どもたちの作品掲示』

開会式が終わり、教室で給食を食べた後は、作品鑑賞（本校児童生徒の作品、交流校の作品、本校職員の作品）をしました。交流校（市内の小中学校、県内の病院内学級、大津分教室）の作品には、自分たちと同じように治療しながら勉強する仲間が頑張った作品、以前守山養護学校に在籍していた児童の作品、中学校の美術部員が描く作品など、さまざまな作品の展示がありました。どの作品にも作者の思いがたくさん詰まっていました。本校の子どもたちや、職員一人ひとりが書いた感想は、お礼として、交流校へ届けました。

午後は、芸術体験活動で『土面づくり』をしました。『滋賀次世代文化芸術センター』と『滋賀県立陶芸の森』から講師を迎え、ご指導をいただきました。作り方の説明の際、陶芸家の先生によってみるみるうちに土面が出来上がっていく様子の子ども

たちは興味深く見ていました。説明が終わるといよいよ粘土を手にして、作品作りの時間です。400万年前の古琵琶湖層といわれる信楽の粘土をこね、自分だけの素敵な土面を完成させることができました。1カ月後に焼き上がり、素敵な土面が届きました。



『芸術体験活動（土面づくり）の様子』

## 〔文化祭2日目〕

2日目（10月4日）は、チャレンジグループ（小学生）の発表からスタートしました。チャレンジグループは、国語科で学習した『かぼちゃのつるが』や『ぼくは川』、『せんねん まんねん』の詩と『大きなかぶ』の話の朗読とそれに併せて影絵の発表をしました。暗闇の中、スポットライトを浴びながら、一つひとつの言葉をゆっくりと気持ちを込めて読む姿や、それに合わせて動く影絵はとても感動的でした。

最後に金子みすゞさんの詩、『わたしと小鳥とすずと』の手話歌の発表をしました。詩に込められた作者の思いを手話に変え、心一つにして発表しました。『みんなちがって みんないい』のフレーズが心に響きました。



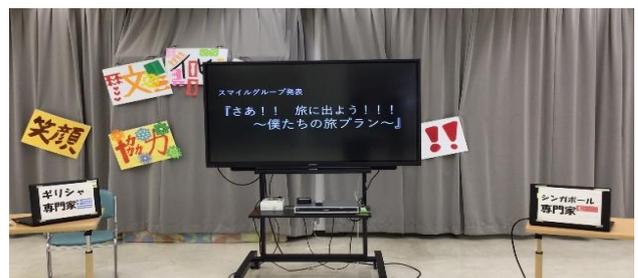
『子どもたちの魔法でできた飾りつけ』

次のパワータイムグループ（小学生と中学生合同）の発表は、『モリーポッター』と題して、グループの仲間が魔法学校の子どもになり、魔法を使って、プレイルームでハロウィンパーティーの飾りつけをしました。



『病院内の子どもたちも動画で参加』

歌に合わせて楽器を鳴らしたり、魔法のスイッチを押したりして、たくさんの綺麗な花を咲かせました。次に、病院内で学習している生徒が動画で出演し、魔法の杖を振ってジャック・オー・ランタンの飾りつけをしました。最後は、視線入力装置を使って魔法をかけ、大きなジャック・オー・ランタンの飾りつけをしました。会場をにぎやかに飾ったあとは、みんなで楽しい音楽に合わせてダンスを披露しました。会場は拍手や応援の声で包まれ、とっても素敵な発表となりました。



『スマイルグループ（中学生）の発表』

午後の最初のプログラムはスマイルグループ（中学生）の発表でした。『さあ！！ 旅に出よう！！ ～僕たちの旅プラン～』という題で、自分が行きたい国を選び、その国へ行く旅行プランを立て、みんなの前でプレゼンテーション発表をしました。中

学生2人はそれぞれ、旅行先にギリシャとシンガポールを選び、衣装もそれぞれの国の伝統衣装をイメージした服装で登場しました。行きたい国の特徴や交通手段、食べたい料理や泊まりたいホテル、行ってみたい観光地など具体的なプランがパワーポイントのスライドでわかりやすくまとめられていました。また、発表では調べてわかったことだけでなく、自分の考えもしっかり述べられていて、中学生らしい聞きごたえのある発表でした。

プログラムの最後は、『へいわってすてきだね』という演題で本校職員による発表を行いました。

詩：安里有生、画：長谷川義史の絵本『へいわってすてきだね』の朗読を中心に、『島人ぬ宝』『さとうきび畑』の歌、踊り（エイサー）、三線の演奏など、演者にとっては、ドキドキの連続でしたが、子どもたちからたくさんの応援や拍手をもらうことができ、職員一同うれしい気持ちでいっぱいになりました。

閉会式では、文化祭実行委員の中学生から「みなさん一人ひとりにとっての『最強』の文化祭になったのではと思います。文化祭は終わりますが、次の目標に向かって『笑顔』でがんばりましょう。」との言葉があり、どの子どももみんな満足そうな笑顔や拍手で応えていました。

今年の文化祭も、入院中の子どもたちそれぞれが努力と工夫をしながら、日々の学習成果を発表したり、新たなものを創り出したりするなど、一人ひとりがもてる力を十分発揮して活躍しました。

当日お忙しい中、ご来校いただき、子どもたちを応援し、温かく見守ってくださった保護者の皆様、病院スタッフの皆様ありがとうございました。

## ～事務局より～

今年度も、本校在職会員にあわせ、新規の保護者会員様をはじめ、継続手続きしていただいている賛助会員様、本当にたくさんの皆様のご協力により、入院中の子どもたちの学校生活を支えるための本校教育後援会の活動を活発に進めさせていただいております。本当にありがとうございます。

会員の皆様よりお預かりしております会費は、子どもたちの活動の充実のため、「活動補助費」としても活用させていただいております。今年度前期は、遠足代替行事「びわこタイム」、小学部「わかあゆ夏祭り」、「中学部あすなる夏祭り」、「中学部ハロウィン活動」、「小学部環境学習」などの取り組みで、子どもたちの体験活動をより充実させ、入院中の子どもたちの今とこれからの生活を充実するための意味のある活動とすることができました。



『中学生ハロウィン活動』



『小学部環境学習』

## ～編集後記～

会員の皆様の御支援、御協力のおかげで第53号を発行することができましたこと、厚くお礼申し上げます。本校の在籍児童生徒数は、減少の傾向にあります。入院中の子どもたち一人ひとりの学校生活の充実のため、本会の活動を更に進めていきたいと考えておりますので、会員の皆様には、今後も引き続き、御支援御協力の程よろしくお願いいたします。